

## 【英語科】

### 1 今年度の研究について

#### (1) 教科で取り組んだ授業改善

##### ア 「主体的・対話的で深い学び」に向けての取組

生徒の興味関心を高め協働的に活動をさせることによって motivation を向上させることが重要であると考え、次の工夫をした。

- ・授業では、学年全体で共通の PowerPoint を使用し、生徒の活動を増やした。
- ・評価では、3 観点のバランスを考え、考えを表現させる設問を考査に入れた。
- ・パフォーマンステストでは、ロイロノート、Teams、AI Writing テストなどを利用して、生徒が計画的、自主的に取り組めるよう工夫した。
- ・教科書に出てきた芸術家ミヤザキケンスケ氏によるオンライン授業を実施した。

##### イ ICTを活用した授業の取組

- ・学年全体で共通の PowerPoint スライドを使い授業を行った。
- ・ロイロノートを使用したインタラクティブな授業を行った。
- ・ICTを活用したパフォーマンステストを実施した。また、事前学習用のレクチャー動画を配信するなど、家庭学習での ICT 活用を促した。

##### ウ 今年度の取組の成果と課題

- ・共通のスライドを使うことにより、授業内で生徒の活動を増やすことができた。
- ・ロイロノートの授業内活用により、発言の苦手な生徒も含め、積極的に考えて意見を共有しようとする意欲を育てることができた。
- ・オンラインでの AI による評価を活用することにより、生徒が客観的に自分に足りない部分に気づくことができるような Feedback を与えることができた。
- ・レクチャー動画なども含め、事前学習に積極的に取り組ませる工夫をしたり、授業内でのオンライン AI 評価を利用したりするなど、生徒の motivation をより一層高める授業をいかに効率的につくるかが今後の課題である。

#### (2) 観点別評価の検討について

- ・事前に決めた 3 観点の割合を、考査問題作成の際に調整することがあった。
- ・AI による評価は、Accuracy (正確性) 優先になりがちで、さまざまなスキルを評価するためには、教員の目による評価が必要である。
- ・「主体的に学習に向かう態度」を評価するために、意見を述べる問題を出題したが、「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価にも当たるとの指摘があった。また、課題の取組状況を評価するにしても、この点は避けられない。
- ・生徒自身の振り返りや他者からのフィードバックを評価の参考にするにしても、自己評価やピア評価の妥当性に課題が残る。
- ・生徒個々の努力と伸びを評価するためには、複合的かつ多角的な視点での評価が必要であるが、その具体的な方法についてさらに研究する必要がある。

### (3) 研究授業の結果分析

#### ア 研究授業のねらい（仮説）

必要な情報を入手し、相手に適切に伝えなければならない状況をつくり出すことで、生徒は必要な情報を的確に読み取り、相手に理解してもらいやすいように話すという能力及び、相手の説明を聞いて理解する能力を高めることができる。

活動の様子を観察したり、聞いた内容を口頭で発表させたり、書いてまとめさせたりして評価することができる。

#### イ 研究授業実施の結果（仮説の検証）

授業内の活動では、ジグソー法を使った。生徒は、自分だけしか知らない情報をわかりやすく伝える活動に意欲的に取り組んでいた。聞くこと、話すことについての能力を高めることができた。

#### ウ 研究授業の成果と課題

##### (ア) 研究授業の成果

各自が自分の担当の写真が示す事からについて他のメンバーに伝えるという活動は、責任をもって自分の役割を果たさなければならない活動なので、これまで消極的に見えた生徒たちにも頑張って話そうとする姿勢が見られた。

##### (イ) 研究授業の課題

自分のもつ情報を伝える際に、そのスクリプトのフレームとなる表現を乗せたプリントを用意したが、極力プリントを見ないで言ってみようとする生徒が見られた一方で、プリントを読む形で終わってしまった生徒も見られた。キーワードのみをメモとして持たせて、どうしても必要なときだけメモを見て情報を伝えるように改善するなどして、聞き手の顔を見て話せるようにさせることが今後の課題である。

## 2 来年度の研究に向けて

### (1) 教科として取り組む授業改善について

#### ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

生徒の Motivation を高めるために、①「状況設定」②「Authenticity」③「楽しく、達成可能な活動」④「肯定的自己評価につながる活動」(Dorney, 2001)に留意した協働活動を設定することで、深い学びを促しつつ、主体的な学びにつなげたい。

#### イ ICTを有効に活用した授業の実現に向けて

ロイロノートや Teams の「資料共有」や「投稿」の機能を有効活用し、授業を、ペアワークやグループワークにとどまらず、さらにインタラクティブなものにして、生徒のコミュニケーション能力を伸ばしたい。

また、AIの技術を利用して、生徒が自ら文法のミスに気付いてそれを直す推敲の作業をさせることもできるため、教員は今まで以上に内容や論理展開についてのフィードバックに重点をおいて指導できるとよい。

(2) 観点別評価の具体的方法、その後の指導への活用について

本年度考査作成時に、設問ごとに評価の観点を記載し、バランスに配慮したが、年度当初に各考査における配分をある程度明確にしておき、各作成担当者はそれを確認した上で作問をすると、年間を通してバランスのよい評価が可能になると考えられる。

また、パフォーマンステストについては、録画したのを見て評価ができたり、音読の正確性を数値化したり、作文において他の言い回しや語彙を提示したりするなど、A Iを含めたICT活用の利点は大きい。これらを最大限に生かし、評価の効率化を図るとともに、主体的な学習につながる生徒へのフィードバックを増やしていきたい。